

2021年度第1回エヌ・シー・ティ放送番組審議会

1. 開催日時：2021年12月10日（金）11:00～12:30
2. 開催会場：エヌ・シー・ティ本社 3F 大会議室
3. 出席委員：6名（委員総数6名、うち欠席0名）

出席委員	
委員長	長谷川 和明
委員	石井 美紀
委員	田村 栄一
委員	水内 智憲
委員	川上 恵子
委員	南

放送事業者	
今泉 道雄	代表取締役社長
若月 栄弥	顧問
大久保 泰宏	取締役地域情報部長
野本 隆行	地域情報部CP
東條 真一	地域情報部課長
渡辺 早貴	地域情報部リーダー

敬称略、順不同

4. 開会挨拶（今泉社長）

コロナ禍で様々な制約があるが、当社も創意工夫で番組制作に励んだ。今後どのような状況となっても、地域にとって無くてはならないメディアを目指していきたい。審議委員の皆様からは、忌憚のないご意見を頂戴したい。

5. 委員長挨拶（長谷川委員長）

エヌ・シー・ティは会社設立35年を迎え、更に近年はサービス提供エリアを拡大している。さまざまな番組を制作しているが、若者のテレビ離れが進んでいる中で更なる創意工夫が求められており、本日の審議会で寄せられる意見を踏まえ、今後の番組制作に活かして頂きたい。

テレビ放送以外にも、無料アプリ「NCTコネクト」を展開している。今後、どのように活用して、更なる地域情報の発信につなげていくか、についても意見交換していきたい。

6. 報告事項（渡辺リーダー）

- ・今年度の主な取組
- ・2022年度に向けた取組

7. 審議

(1) 長岡花火応援特別番組について

番組名：「私たちの長岡花火～みんなの想いを来年へ～」

放送日：2021年8月2日（前編）、8月3日（後編）

概要：昨年同様、長岡まつり大花火大会の中止を受けて制作した特別番組。今回は、花火師の解説と共に2019年の花火を振り返りながら、長岡市民へのインタビューを盛り込んだ。次年度も、同様の特別番組を制作し、年末放送に向けて準備を進めていく。

<審議委員からの主なコメント>

- ・長岡花火の振り返りだけでなく、様々な角度からのアプローチがあり、深みを感じられる内容だった。
- ・「来年こそは、是非花火を打ち上げよう」という目標と希望を共有でき、良い企画だった。
- ・番組進行役のお二人に安定感があり、見ていて安心できた。
- ・花火への想いが込められた市民のインタビューが良かった。長岡市出身者以外にも伝わった。
- ・酔火連の経緯、写真家の方や小林真弓さんの長岡花火との関わり、いずれも印象に残る内容だった。
- ・裏側を見せてもらったことで、今後の花火の楽しみ方が見つかった。
- ・一部の出演者は、テレビに慣れていないためか、姿勢や所作にやや違和感があった。

・長岡花火に関する詳細な解説は、地元の長岡市民には好評。その一方で、素人への配慮も欲しかった。

(2) 「オジさんぽ長岡」について

番組名：「オジさんぽ長岡」

放送日：2021年10月（干場の名前の謎）、11月（地蔵町）

概要：2021年10月より放送開始。定年を迎えたおじさんが、長年住み慣れた地域を散歩して、歴史にひたる番組。企画の背景には、過去の経験を踏まえ、おじさんの顔は極力見せないこと、歴史専門家ではない素人が地域を歩くことで視聴者の共感を得られないか、という仮説があった。

<審議委員からの主なコメント>

- ・地域密着のケーブルテレビらしい番組だと感じた。是非、他の地域も取り上げて欲しい。
- ・歴史が好きなおじさんはもちろん、地域に興味がある方にも楽しめる内容だった。
- ・歴史を知らない若者など、オジさん以外の方も出演すると、もっと共感を得られるのではないかな。
- ・歴史専門家ではない素人だからこそ、目の前の事実を柔軟な発想で受け入れられる。
- ・良い意味でローカルだからこそ、間延びしている感じでもリラックスできて良い。
- ・今ある風景を作り出している歴史を感じる紹介が良かった。
- ・わざわざ歩かなければ分からない道を紹介してほしい。
- ・うんちくを語る部分は、少し早口すぎて理解できなかった部分もあった。

(3) その他

- ・コロナ禍で外出を控えている中、アルビ BB の中継は大変ありがたい。
- ・まずは、NCT コネクトをもっと PR し、もっと多くの方に知ってもらおうこと。更にその次に、どう伝えるか、どうすればもっと見てもらえるか。NCT コネクトの充実が番組視聴につながると考える。
- ・NCT 加入者でも、見て頂けていない方が多いのではないかな。もっともっと PR して頂きたい。
- ・多チャンネル、ネットの強みも活かしてほしい。

8. 閉会挨拶（大久保部長）

- ・皆様から頂戴した忌憚のないご意見は、今後の番組制作に活かしていきたい。
- ・引き続き、個人の職人技にだけ頼るのではなく、チームで番組制作に取り組んでいきたい。
- ・皆様ご多用の折、本日は誠にありがとうございました。

以上